花子とアンへの道

村岡花子 出会いとはじまりの教文館

［写真］1935年（42歳）頃の花子／1952年三笠書房から初めて刊行された『赤毛のアン』

世代を超えて多くの人々に読まれている『赤毛のアン』を、日本ではじめて翻訳・紹介したのが村岡花子でした。

花子は戦前に教文館の編集者として、女性と子どものための出版の仕事をしていました。戦争へと向かう不穏な時世に、同僚のカナダ人宣教師ショーから友情の記念として贈られた一冊の本が“Anne of Green Gables”だったのです。

初めての本『爐邊』の出版、そして夫となった村岡儆三との出会いの舞台となったのも教文館でした。

この展覧会では、教文館時代の仕事や出会いを中心に、村岡花子の生涯をご紹介いたします。

2014年5月31日(土)～7月14日(月)

会期中無休　銀座 教文館　9Fウェンライトホール

午前11時～午後7時（入場は午後6時半まで・最終日は5時閉場）

入場料＝大人700円、大・専門学校生500円

高校生以下100円、幼児無料

［同時開催］わたせせいぞう『アンを抱きしめて』絵本原画展示

◉関連イベント（第2会場：教文館6Fナルニア国）

"村岡花子"、『赤毛のアン』関連書籍、『赤毛のアン』グッズの販売をいたします。

◉関連フェア　教文館各フロアにて関連フェアを開催いたします。

詳しくは教文館ホームページをご覧ください。http://www.kyobunkwan.co.jp

花子が戦火の中でも手放さなかった『赤毛のアン』自筆翻訳原稿を展示。

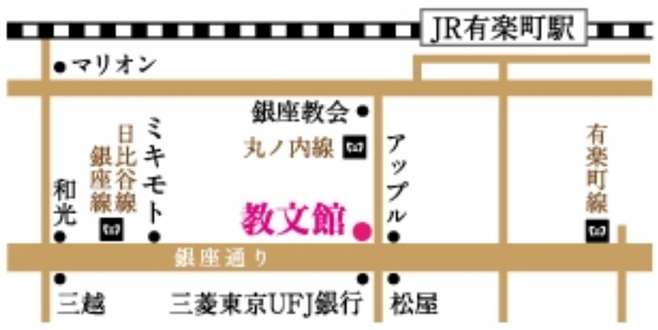
『アンを抱きしめて-村岡花子物語』絵／わたせせいぞう　文／村岡恵理（NHK出版）より。1930年頃の銀座4丁目の交差点、左手に和光（服部時計店）と教文館が見える。

［左から］1915年頃の教文館／1933年11月に現在の教文館ビル屋上にて撮影。中央が花子。左から2人目の洋装のショー女史が、のちに花子へ『赤毛のアン』原書を手渡した。／花子とショーが編集を務めた頃の、子ども向け月刊雑誌『小光子』（1936年5月号）／教文館に1冊のみ現存。花子のはじめての本『爐邊』（1917年12月刊行）

1885年創業　本の教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

☎03-3561-8446　Fax.03-3535-5052



主催：教文館　監修：赤毛のアン記念館・村岡花子文庫

資料提供：瀬下麻美子、宮崎蕗苳、東洋英和女学院、山梨英和中学校・高等学校、（公財）賀川事業団雲柱社 賀川豊彦記念松沢資料館

特別協力：新潮社、（株）アップルファーム

協力：NHK出版、河出書房新社、学研教育出版、講談社、白泉社、偕成社、福音館書店、Beans,Inc

後援：（公財）東京子ども図書館、（一社）日本国際児童図書評議会（JBBY）、（一財）出版文化産業振興財団（JPIC）

大人割引券

花子とアンへの道「出会いとはじまりの教文館」

本券で2名様まで100円引きでご入場いただけます。